

4 人権教育計画

(1)人権教育の全体計画

学校教育目標
きらきら輝く赤岡っ子の育成

人権教育目標（目指す子ども像）	
人権や人権問題について正しく理解し、自分や友だちを大切に作る児童の育成。	
1. 2 年	友だちの気持ちを考えながら、なかよく助け合える子どもを育てる。
3. 4 年	身のまわりの差別や不合理、矛盾に気付き、みんなで考え取り組める子どもを育てる。
5. 6 年	基本的人権を尊重し、差別を見抜き自ら行動できる子どもを育てる。
目指す教職員像	
○豊かな人権感覚を身につけた教職員 ○子ども・家庭・地域の願いを受けとめる教職員 ○子どもを肯定的にとらえ子どもとともに学ぶ教職員 ○常に自らを高める教職員 ○できない理由を探すのではなくどうすれば出来るのかを追求する教職員	

学習機会を保障する活動の確認	
○各種実態把握 ・標準学力検査 ・生活調べ ・スポーツテスト	○授業改善 ・特別活動・人権学習授業研究の充実 ・授業評価システムの活用 ・コミュニケーション力の育成 ・操作言語様式の定着
○読書タイムの充実	
○不登校児童や特別な教育的支援の必要な児童に対する取組 ・特別支援学級連絡会 ・校内支援委員会 ・教育相談機能の充実	○加力学習の充実 ○家庭学習の習慣化 ○食教育や体力づくりの取組の充実 ○キャリア教育の推進
職員間で共通理解を必要とする事項	
○保護者の願い ・一人一人が大切にされる学校。 ・いじめがない学校。 ○地域の実態 ・「黒潮の子ども応援隊」を中心とした地域ぐるみの活動をしている。 ・少子高齢化が進んでいる。 ○児童の実態 ・人と関わることが好きで、全体的に仲がいい。 ・厳しい家庭背景をもつ児童が多く、日頃からの実態把握や支援が必要。	

人権が侵害されたり、配慮が必要と思われる子どもの姿		
○不登校傾向にある児童（5人）※前年度30日以上欠席（3名）	○要保護対象児童（12人）	○準要保護児童数（39人）

人権学習及び校内研修等の計画													
		同和問題	女 性	子 ども	高齢者	障害者	HIV 感染者等	ハンセン病 回復者等	外国人	犯罪 被害者等	インターネットによる人権侵害	災害と 人権	その他
学 習	1. 2 年	○			○				○				○
	3. 4 年	○			○	○		○	○		○		○
	5. 6 年	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○
研 修	保護者	○									○		○
	教職員	○									○		○

※ 保護者対象のものは、人権教育参観日の公開授業を含む。

各教科等における人権教育との関連			
国語	○教材を通して人間としての生き方についての考えを深める。	体育	○協調性・連帯性を育てる。
社会	○人権問題を正しく理解する。	家庭	○よりよい家庭生活の在り方に気づき実践する力を育てる。
算数	○論理的思考や合理的な考え方を養う。	外国語活動 外国語	○表現力やコミュニケーション能力の素地を育成する。 ○表現力やコミュニケーション能力を育成する。
理科	○科学的な見方や考え方、自然や生命を愛する心情を育てる。	特別の教科道徳	○差別や偏見に気付かせ、人間尊重の精神を育てる。
生活	○身近な人々との関わりに関心をもつ。	総合的な学習の時間	○教科横断的な内容の学習や体験的活動を通して、課題を解決するための実践的行動力や豊かな人間性を養う。
音楽	○合奏や合唱を通して豊かな感性を育てる。	特別活動	○学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事において、望ましい集団活動や人間関係について体験を通して学び、自他を尊重し社会に貢献する姿勢を養う。
図画 工作	○表現活動や鑑賞活動を通して豊かな感性を育てる。		

学校生活等における人権教育の視点
・規範意識…きまりを正しく理解し、守ろうとする態度を養う。 ・授業…どの子にも学びが保障され、集団としての学びが実感できるための授業づくりに取り組む。 ・集団づくり…児童の実態と背景を正しく把握し、なかま・集団づくりを基盤に、良好な人間関係づくりを目指す。 ・地域学習…地域や家族、仲間、自分自身と向き合い、今何をすべきかを考えて行動できるような学習を計画する。 ・中学校区での行動連携…小学校どうしの連携、中学校との連携を意識し、中学校区で同じ目的に向かって取り組み、共有する。